

7. 点検評価と課題

2016年度は、法人化3期目の初年度に当たり、新たに4名の運営顧問に就任いただき今期中の研究所運営に対するアドバイスをいただく体制を整えた。運営顧問をお勤めいただく、菊池昇豊田中央研究所長、晝馬明浜松ホトニクス社長、瀧川仁東京大学物性研究所長、松本吉泰京都大学大学院理学研究科教授の4名には、12月7日に開催した運営顧問会議の際に来所いただき、研究所の全体像を紹介した。

また、個々の研究領域の研究成果及び領域の研究方針に関して、運営会議の所外委員を務める関連研究者からのアドバイスを受ける目的で、2月9日に開催した運営会議の後に4領域の現状を紹介した。評価内容については、次期の分子研りレポートに掲載する予定である。

2016年3月には、Ron Naaman 教授により物質分子科学研究領域を中心にヒアリングが実施され、グループの研究内容の評価をいただいた。2016年及び2017年3月には、ライス大学の Peter J. Rossky 教授により、理論・計算分子科学研究領域を中心にヒアリングが実施され、2年にわたる当該グループの研究内容の評価をいただいた。

また、ドイツ・ユーリッヒ研究センターの管滋正客員教授によって、UVSOR 施設における光電子分光分野を中心とした施設整備状況及び研究内容について評価をいただいた。

これら、所外研究者からの評価は、個々の研究者の今後の研究方針を決める上で貴重なアドバイスであると同時に、研究所全体の運営に対する貴重な提言も含まれており、今後の研究所運営に反映させていただき所存である。

(川合真紀)